

6年 国語科学習指導案

大阪市立中津小学校 永浦 倫子

1 日 時 令和7年11月11日（火）第5校時（14:00～14:45）

2 学年・組 第6学年1組（在籍23名）

3 単元名 心に残った表現をポスターにまとめよう。

（中澤 晶子「模型のまち」東京書籍6年）

4 単元目標

(1) 物語に描かれた表現の工夫に気付くことができる。

〔知識及び技能〕(1)

(2) 物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)エ

(3) 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えをまとめることができます。

〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)カ

(4) 進んで表現の効果を捉えながら物語を読み、学習の見通しをもって、読んで考えたことを伝え合おうとしている。

「学びに向かう力、人間性等」

5 単元間の関連と系統

前単元（5年10月）

本単元（6年9月）

次単元（6年12月）

次単元（中学1年11月）

学習材 「注文の多い料理店」 登場人物の変化や表現の工夫を探しながら読み、物語のおもしろさを書く。	学習材 「模型のまち」 表現に着目してその効果を考えながら読み、感じたことを伝え合う。	学習材 「海のいのち」 人物の生き方について考え、物語が自分に語りかけてきたことを伝え合う。	学習材 「少年の日の思い出」 作品の構成の工夫や表現の効果について考える。
---	---	--	---

6 単元で取り上げる言語活動

本単元では、「心に残った表現ポスター」という言語活動を設定する。このポスターの構成は「心に残った表現とその効果」「作品から伝わるメッセージ」をまとめるようにする。「心に残った表現とその理由」では、本学習材のキーワードである「模型のまち」「白」「ビー玉」という言葉や、それらに関わる表現（言葉や文）が物語の中で、どのような効果（意味）をもたらしているのかを捉え、まとめるようにする。「作品から伝わるメッセージ」は、本学習材を読んだ学習者が、単元の学習を終えて、作品から感じたことを書くようにする。

この言語活動を行うためには、物語の中で繰り返し出てくる表現や色彩語に着目し、その意味を人物の心情の変化と関係付けながら捉える必要がある。したがって、「心に残った表現ポスター」という言語活動は、本単元に適した言語活動であるといえる。

（関連：〔思考力・判断力・表現力等〕C(1)カ）

7 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。(1)ク	①人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。C(1)エ ②文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。C(1)オ	①言葉がもつよさや表現の効果を認識するとともに、課題解決に向けて、進んで読み、思いや考えを伝え合おうとしている。

8 指導にあたって

【学習者観】

本学級の学習者は、昨年の「注文の多い料理店」では、物語をおもしろくしている表現の工夫についての学習を行った。現実→非現実→現実という額縁構造や、繰り返し出てくる色彩表現やオノマトペ、扉に書かれた言葉の意味の違いなどの表現に着目することで、物語のおもしろさを捉えることができた。「大造じいさんとがん」では、大造じいさんの行動・会話・様子から心情を想像することで、人物像を捉えたり、情景描写から人物の心情を想像したりし、イメージ豊かに物語を読み味わってきた。

今年度の4月「さなぎたちの教室」では、「登場人物の気持ちを想像し朗読で表現しよう」という単元のめあてに向けて、学習に取り組んだ。単元を通して、登場人物の心情について既習を生かし、「黒い物」「透明」などの色彩表現や「シールドみたい」の比喩表現、「花びらをまきあげ」の情景描写などの表現に着目し、中心人物の心情を捉えることができた。そして、第三次では、捉えた心情をもとに、声の強弱や読む速さ、間の取り方などを工夫しながら、捉えたことを朗読で表すことができた。朗読する際には、自分の好きな場面を選んで学級全体で朗読会を行い、一人一人の捉えたことの違いが聞き手に伝わるよう、朗読を行うことができた。

6月「風切るつばさ」では、「人物どうしの関係を捉え、心情の変化を想像しよう」という単元のめあてを設定し、学習に取り組んだ。人物どうしの関係を捉えるために、クルル・カララ・群れのみんなの関係を人物相関図にまとめる活動を行い、それぞれの状況や背景を踏まえ、人物の心情を想像することができた。人物同士の関係を図に整理し、それぞれの行動・会話・様子を整理することで、学習者は、中心人物クルルの心情がカララの「黙ったまま寄り添う」という行動によって変化していくことに気付くことができた。

このように、学習者は表現の工夫を読み取ったり、人物同士の関係を捉えたりすることができる。しかし、人物の特徴や変容を表す暗示的な表現を読み取り、そこからどんなことが分かるかといった、表現の効果を捉えるまでには至っていない。また、6月に「ピース大阪」に社会見学に行き平和学習をしたり、読書の時間に戦争に関する本を読んだりしている。しかし、全体的に戦争についての知識や理解は少ない。

【単元観】

本単元では、題名や繰り返し出てくる表現、情景や心情を描いた表現などに着目して読み、物語を読んで感じたり考えたりしたことを伝え合う学習を通して、表現の効果を捉えることをねらいとしている。

本学習材は、4年生「一つの花」「世界一美しいぼくの村」、5年生「手塚治虫」以来の戦争を題材にした教材である。「ひろしま」のことを何も知らずに転校してきた亮という6年生の男の子が、クラスメイトの真由や、その兄である圭太との「模型のまち」作りをきっかけに変化していく。とはいっても、亮はすぐに変化するわけではない。白い「模型のまち」を作り終え、眠りの中で転がり出てきた「ビー玉」を手に、かっちゃんという少年たちと遊ぶことを通して、ようやく、そこに自分たちと同じ子どもたちがいたのだということに気付く。さらに、地層調査で昔の道具（三角定規やインクの瓶、歯ブラシ、ビー玉など）を見付けたことで、そこにかつて「まち」があったことに思いを馳せ、戦争というものを身近に感じるようになっていく。また、本学習材は、時間の経過によって場面が分かれしており、第一場面と第八場面が現在の出来事、第二～七（五を除く）場面が過去の出来事、第五場面がかっちゃんの生きていた時代の出来事（夢）から構成されている。

戦争や平和に実感がわかない学習者は、物語の中の亮と重なり、亮の心情の変化を自分に引き付けて読み深めることができるだろう。「模型のまち」や「ビー玉」、色彩語についての表現に着目して読むことで、亮の心情を捉え、自分との重なりを意識しながら、読むことができる。

このように、本学習材は、学習者が表現の効果を捉えることに適した学習材であるといえる。

【指導観】

第一次では、「表現の効果を捉える」という言葉の力を確認することで、単元で身に付ける国語の力について学習者が意識できるようにする。既習の学習材を想起し、表現の工夫には「反復」「色彩語」「比喩」「情景描写」などがあったことを振り返ることができるようになる。表現の工夫について振り返った後、第三次で取り組む言語活動のモデルを示し、単元の見通しをもつことができるようにする。

その後、心に残った表現を考えながら読むことを確かめ、全文を通読し、初発の感想を書くようになる。初発

の感想は、「心に残った表現とその理由」「不思議に思ったこと」「物語を読んで伝わってきたこと」の三つの観点を活用することで、表現に着目したり、物語から自分が受け取ったことに焦点を当てたりすることができるようになる。特に、「心に残った表現とその理由」については、物語の中で出てくるビー玉や色彩語・情景描写に関するものを意図的に取り上げることで、人物の心情や変化と表現を関係付けて捉える学習につなげるようにする。

さらに、繰り返し出てくる表現は何かを問うことで、本学習材で表現の効果を考える際に重要となる「模型のまち」「白」「ビー玉」に着目できるようになる。そして、それらが「何を表しているのか」や、それらに関わる表現（言葉や文）が「物語でどのような効果（意味）をもたらしているのか」を学習者に問い合わせることで、本单元のねらいに迫っていく視点を明確にして、第二次の学習の見通しをもたせたい。

第二次の第2時では、物語全体の構成を捉えるために、場面ごとの出来事を表に整理するようになる。時間の経過によって場面が分かれていることや、亮が真由や圭太、かっちゃんたちと関わることによって物語が進んでいくことを捉えることができるようになる。また、表に整理することで、「現実⇒夢⇒現実」という額縁構造となっていることにも気付くようにし、物語の大体を捉えることができるようになる。場面ごとの出来事を整理していく時は、「～な亮。」とまとめてことで、中心人物の亮の視点から読むことができるようになる。全場面、そのようにまとめた後に、物語全体で亮が大きく変わった山場を問い合わせ、どのように変容したのかをまとめることで、次時の学習を円滑に進めることができるようになる。

第3時は、亮のまちの見方が変わる前だと分かる表現を見付け、その表現の効果について考えるようになる。「ビー玉」や「(模型の)まち」、色彩に関する表現に着目して見付けていくようになることで、亮のまちの見方が変化していない「自分には関係のない」「昔の建物にすぎない」「ふうんて終わり」「ぴんとこない」「白いままねむっていた」などの叙述に着目できるようになる。

本時では、亮のまちの見方の変化が分かる「色がある」「かっちゃんの手は温かかった」「じっと見つめるひとみのよう」「それがはっきりわかった」などの表現を見付け、それぞれの表現からどのようなことが分かるのかを考えることで、表現の効果を捉えることができるようになる。その際、第3時で見付けた変化前の亮が分かる表現を振り返ることで、それぞれの表現を対比させ、表現の効果に迫ることができるようにする。

第3時と本時においては、学習者が「一人で考える」「話し合いながら考える」「友達の考えを聞く」「友達の考えを確かめる」など、学習や交流の形態を選択できるようになることで、自身の学びの調整を図ることができるようになる。さらに、表現の効果を捉える際、言葉の意味を調べたい学習者には、タブレット端末を活用し、いつも言葉の意味を調べてよいように、学習環境を整えるようになる。また、学習の振り返りは、「授業前後の考え方の変化」「新しい発見や疑問点」「友達との交流について」「友達にアドバイスしたこと、されたこと」の観点を活用し、学習者が学びを自覚できるようになる。

第三次では、单元のまとめとして、これまでの学習をもとに、「心に残った表現とその効果（そこから分かること）」「作品から伝わること」をポスターにまとめることにする。ポスターは、Canva や Google スライド、画用紙など、学習者の実態によって選択できるようになる。また、作成したポスターは後方に壁面掲示し、学習者がそれぞれの考えを共有できるようになる。

なお、本单元に取り組んでいる間、図書室から集めた戦争と平和をテーマとする作品などの関連図書を学級に置くことで、読書の幅を広げ、日常的な読書へつなぐことができるようにならう。

9 指導と評価の計画（全6時間）

次 時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
一 I	○单元や学習の見通しを立て、初発の感想を書く。	・既習の学習材をもとに作成したポスターを提示することで、本单元の言語活動のモデルを示すようになる。 ・「心に残った表現とその理由」「不思議に思ったこと」「作品を読んで伝わってきたこと」の観点を示し、初発の感想を書くことができるようになる。	

	2	○物語全体の構成を捉える。	<ul style="list-style-type: none"> ・時、場所、人物に着目して場面分けを行い、出来事を表に整理する。 ・繰り返し出てきた表現は何か問うことで、「ビー玉」「模型のまち」「白」に着目することができるようになる。 	<p>[知識・技能①]</p> <p><u>ノート</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し出てくる言葉や題名などに着目し、人物の変容に関わる表現に気付いているかの確認 <p>[思考・判断・表現①]</p> <p><u>ノート・観察</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ビー玉」「まち」色彩語に関する叙述から、亮の心情に関わる表現の効果を考えができているかの確認
二 本 時	3	○表現をもとに、ひろしまに無関心だった亮について捉え、表現の効果を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返し出てきた「ビー玉」や「まち」、色彩語に着目して、考えるように促す。 ・「一人で考える」「話し合いながら考える」「友達の考えを聞く」「友達の考えを確かめる」など、学習や交流の形態を選択できるようになることで、学びを調整することができるようになる。 ・前時に学習した変化前の根拠となる叙述の表現を振り返ることで、対比になっている表現にも気付くことができるようになる。 ・「一人で考える」「話し合いながら考える」「友達の考えを聞く」「友達の考えを確かめる」など、学習や交流の形態を選択できるようになることで、学びを調整することができるようになる。 	<p>[主観的学習に取り組む態度①]</p> <p><u>ノート・観察</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的をもって交流し、級友の考えを参考にして、自分の考えに付け加えたり、深めたりしようとしているかの確認
	4	○表現をもとに、亮の変化について考え、表現の効果を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に学習した変化前の根拠となる叙述の表現を振り返ることで、対比になっている表現にも気付くことができるようになる。 ・「一人で考える」「話し合いながら考える」「友達の考えを聞く」「友達の考えを確かめる」など、学習や交流の形態を選択できるようになることで、学びを調整することができるようになる。 	<p>[主観的学習に取り組む態度①]</p> <p><u>ノート・観察</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的をもって交流し、級友の考えを参考にして、自分の考えに付け加えたり、深めたりしようとしているかの確認
三	5	○「心に残った表現とその効果」「作品から伝わること」をポスターにまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・Google classroom や画用紙など、ポスターを作成したいものを選択できるようになる。 ・作成したポスターは、印刷し、教室内に壁面掲示することで、学習者が互いの考えを知ることができるようになる。 	<p>[思考・判断・表現②]</p> <p><u>ノート・タブレット端末・成果物</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現の工夫→効果について考えたことをポスターにまとめているかの確認
	6	○単元の振り返りを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の振り返りとして、「何ができるようになったか。また、次回の似た単元でどう生かすことができるか。」を書きかせるようになる。 	<p>[思考・判断・表現②]</p> <p><u>ノート・タブレット端末・成果物</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現の工夫→効果について考えたことをポスターにまとめているかの確認

【知識・技能①】 ノート

「おおむね満足できる」状況 (B) 評価

- ・繰り返し出てくる言葉や比喩表現、題名に着目して、「ビー玉」「模型のまち」「白」などの表現が人物のまちの見方の変化に関わることに気付いている。

「努力を要する」状況 (C) への手立て

- ・題名や人物の心情と関わる言葉を探したり、繰り返し出てくる言葉による付けたりすることで、「ビー玉」「模型のまち」「白」の言葉に着目できるようになる。

【思考・判断・表現①】 ノート・観察

「おおむね満足できる」状況 (B) 評価

- ・繰り返し出てくる「ビー玉」「模型のまち」「白」などの表現の意味を考えたり、それぞれの表現と人物

の心情の変化を結び付けたりしながら、表現の効果を捉えている。

「努力を要する」状況 (C) への手立て

- ・初発の感想を振り返ったり、繰り返し出てくる言葉や色彩語に着目したりすることで、表現と人物の心情を結び付けて考えることができるようになる。

〔思考・判断・表現②〕 ノート・タブレット端末・成果物

「おおむね満足できる」状況 (B) 評価

- ・タブレット端末や画用紙などを活用し、「心に残った表現とその効果」「作品から伝わるメッセージ」について、これまで考えたことを生かしながら、ポスターにまとめている。

「努力を要する」状況 (C) への手立て

- ・これまでのノートを見返したり、掲示物を確認したりすることで、ポスターにまとめられるようになる。

〔主体的に学習に取り組む態度①〕 ノート・観察

「おおむね満足できる」状況 (B) 評価

- ・課題解決に向けて、交流のめあてをもって交流し、級友の考えを参考にして自分の考えに付け加えたり、深めたりしようとしている。

「努力を要する」状況 (C) への手立て

- ・これまでのノートを見返したり、掲示物を確認したりすることで、自分の考えをもてるようになる。

10 本時の学習

(1) 本時の目標（4／6）

「ビー玉」や「まち」、色彩語に着目して、亮の変化が分かる表現を見付け、その表現の効果について考えることができる。

(2) 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価
1 前時までの学習を振り返る。	・前時の学習を想起し、亮が変化する前であることが分かる表現と、その効果を振り返る。	
2 本時の学習課題をつかむ。	表現をもとに、亮の変化について考えよう。	
3 亮の変化が分かる表現を見付け、その効果について考える。	<ul style="list-style-type: none">・「ビー玉」や「まち」、色彩語に着目して、亮が変化したことが分かる表現を見付けていくように促す。・「一人で考える」「話し合いながら考える」「友達の考えを聞く」「友達の考えを確かめる」など、学習や交流の形態を選択できるようにすることで、学びを調整することができるようとする。	<p>◆ [主体的に学習に取り組む態度]</p> <p>ノート・観察</p> <ul style="list-style-type: none">・目的をもって交流し、級友の考えを参考にして、自分の考えに付け加えたり、深めたりしようとしているかの確認。
4 全体で共有する。	<ul style="list-style-type: none">・前時に学習した「亮が変化する前であることが分かる表現」を、本時の「亮が変化した後であることが分かる表現」と結び付けて考えることで、対比関係の表現があることに気付くことができるようとする。・「これらの表現から分かることは何ですか」と発問することで、表現と人物の変化を関係付けて考えたり、物語全体で暗に示して意味を捉えたりすることができるようとする。	
5 本時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none">・振り返りの際は、「学習前後の考え方の変化」「新しい発見や疑問」「交流して分かったこと」「友達にアドバイスしたこと・されたこと」の4観点を示すことで、学習者が学びの深まりを実感できるようとする。	

II 板書計画

